

Ⅱ 調査結果

2. 1 暮らしについて

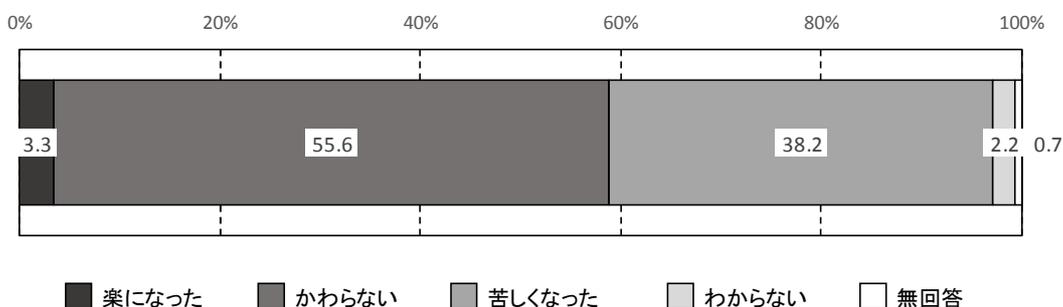
問1 暮らしの前年比較

問1 あなたやあなたの家庭の暮らし向きは、去年の今頃と比べてどうですか。
(1つだけ)

全体(図1-1)で見ると、「かわらない」が55.6%と最も高く、次いで「苦しくなった」(38.2%)、「楽になった」(3.3%)の順となっている。

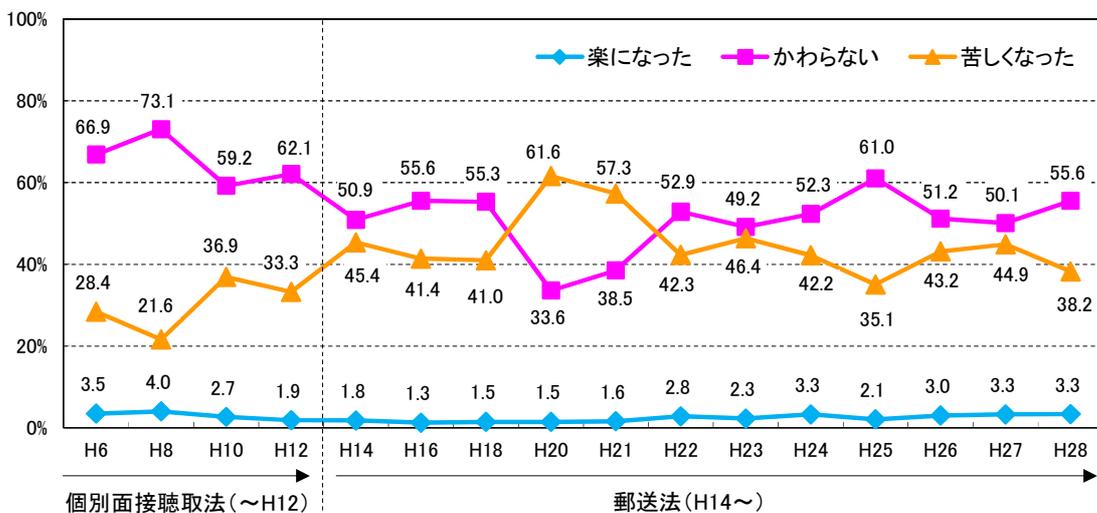
図1-1 暮らしの前年比較

回答者数(n=1,533)



経年変化(図1-2)で見ると、平成18年までは、「かわらない」が最も高くなっている。平成20年から平成21年では「苦しくなった」が最も高くなっており、平成22年からは再び「かわらない」が最も高くなっている。平成28年は、平成27年より「かわらない」が5.5ポイント高くなっており、また「苦しくなった」が6.7ポイント低くなっている。

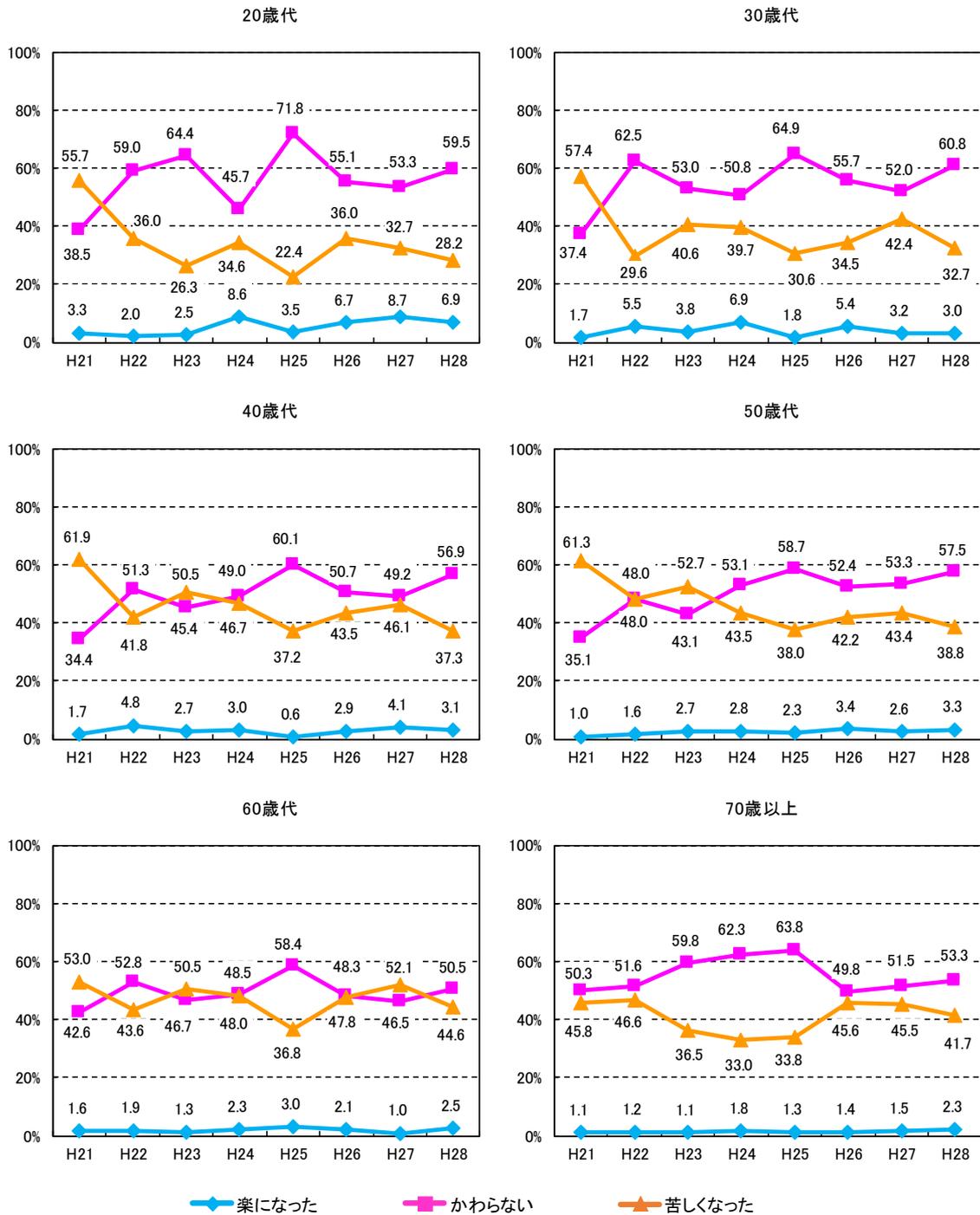
図1-2 【経年変化】暮らしの前年比較



※ 調査方法:平成12年度まで個別面接聴取法、平成14年度から郵送法

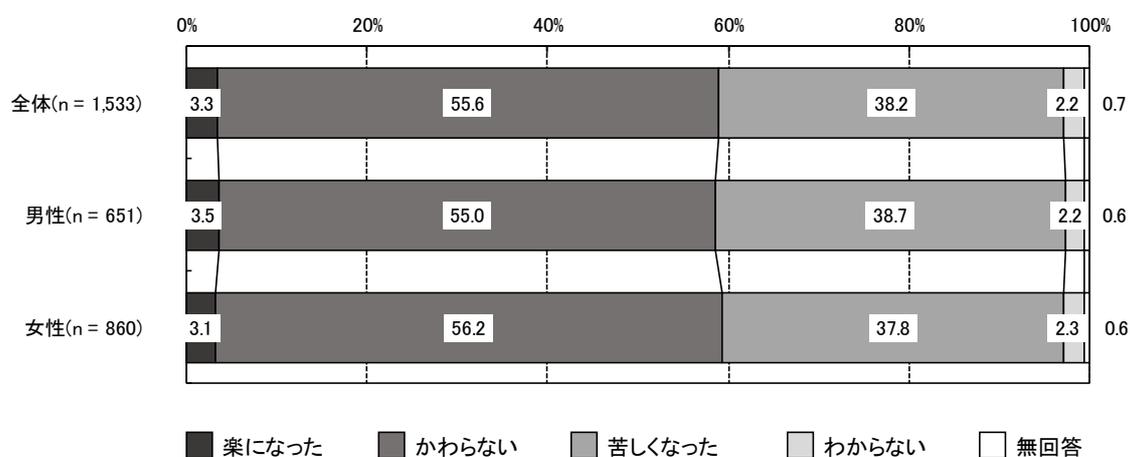
年代別の経年変化（図 1-3）で見ると、平成 28 年では平成 27 年に比べ、いずれの年代においても「かわらない」のポイントが高くなっており、「苦しくなった」のポイントが低くなっている。60 歳代では、平成 27 年に「苦しくなった」が「かわらない」より高くなっていましたが、平成 28 年では逆転している。

図 1-3 【経年変化(年代別)】 暮らしの前年比較



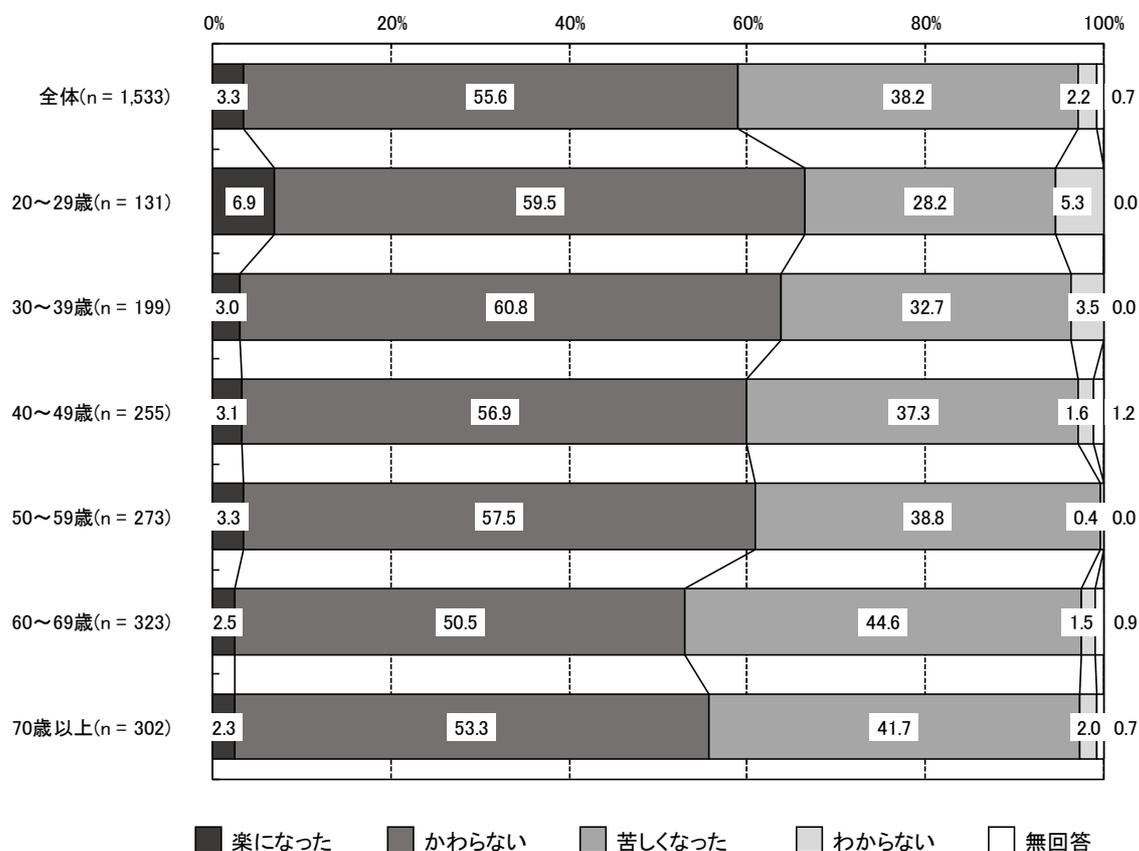
性別（図 1-4）で見ると、男女ともに「かわらない」が最も高く、男性が 55.0%、女性が 56.2%と、女性が男性より 1.2 ポイント高くなっている。

図 1-4 【性別】くらしの前年比較



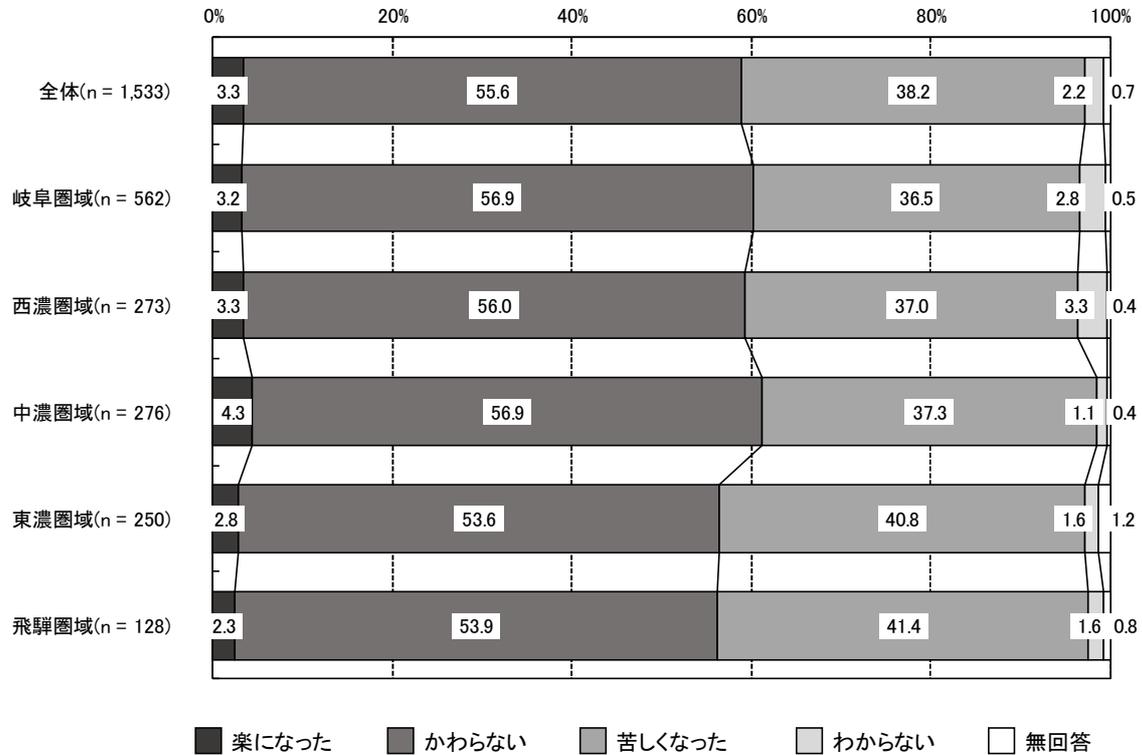
年代別（図 1-5）で見ると、いずれの年代においても「かわらない」が最も高く、そのうち 30 歳代が 60.8%と最も高くなっている。「苦しくなった」は、60 歳代が 44.6%と最も高く、次いで 70 歳以上（41.7%）、50 歳代（38.8%）の順となっている。

図 1-5 【年代別】くらしの前年比較



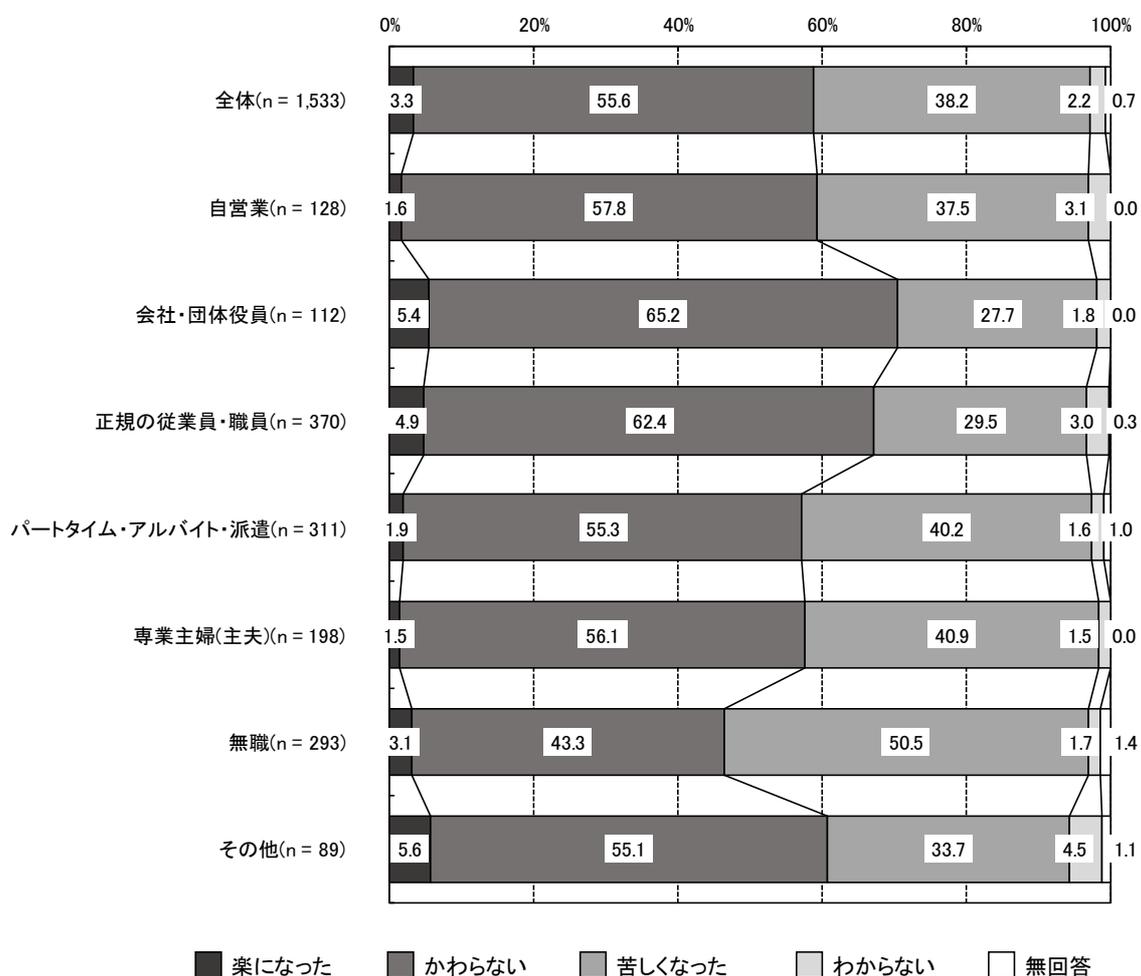
居住圏域別（図 1-6）で見ると、いずれの圏域においても「かわらない」が最も高く、そのうち岐阜圏域と中濃圏域が 56.9%と最も高くなっている。「苦しくなった」は飛騨圏域が 41.4%と最も高く、次いで東濃圏域（40.8%）、中濃圏域（37.3%）の順となっている。

図 1-6 【居住圏域別】 暮らしの前年比較



職業別（図 1-7）で見ると、「かわらない」は会社・団体役員が 65.2%と最も高く、次いで正規の従業員・職員（62.4%）、自営業（57.8%）の順となっている。「苦しくなった」では無職が 50.5%と最も高く、次いで専業主婦（主夫）（40.9%）、パートタイム・アルバイト・派遣（40.2%）の順となっている。

図 1-7 【職業別】くらしの前年比較



※ その他には、自由業、学生を含む